



静岡市生物多様性地域戦略

概要版

生物多様性とは？

様々な環境の中にいろいろな生きものがいること、それらがつながり、バランスが保たれることで、私たちのいのちや暮らしが支えられていることを意味します。

3つのレベルの生物多様性

生物多様性には、次の3つの多様性があります。

生態系の多様性

様々なタイプの自然があること(森林、草原、河川・湖沼、海など)

種の多様性

様々な種類の生きものが生息・生育していること(動物、植物、菌類など)

遺伝子の多様性

同じ生きものの種類の中にも、遺伝子による様々な違いがあること(形、模様、生態など)

基盤サービス



生きものが生み出す大気と水

すべてのいのちの基盤である水や大気は、地球全体の生物多様性が維持されることで保たれています。

供給サービス



暮らしの基礎を作る自然の恵み

豊かな土壌で育つお米や野菜。海洋、川で獲れる魚類や貝類。森林から生まれる木材や紙。私たちの身のまわりには様々な自然の恵みがあふれています。

多様な生きもののつながりがもたらす恵み「生態系サービス」

私たち人間は、多様な生きもののつながりを構成する一員であるとともに、このつながりからもたらされる、生活には欠かせない多くの恵みを得ています。

文化的サービス



文化に多様性をもたらす自然と生きものの恵み

各地で人々は、生物多様性がもたらす恵みを受けながら暮らし、五穀豊穡を祝う村祭りや多彩な郷土芸能が生まれました。

調整サービス



暮らしに安全や快適さをもたらす自然の恵み

森林や河川などの豊かな自然は、土砂災害の防止や安全な飲み水の確保など、私たちの暮らしを守っています。



暮らしの中の生態系サービス

生物多様性の保全と持続可能な利用

私たちは、生物多様性から受ける恵みを自分たちの世代で使い果たしてしまうことなく、様々な生きものたちの生息・生育する自然環境も含めて節度ある利用と保全に努め、次の世代へ大切に受け継いでいかなければなりません。

戦略策定の背景

生物多様性をめぐる近年の動き

1992	地球サミット(ブラジル・リオデジャネイロ)にて「生物多様性条約」採択
1993	日本が「生物多様性条約」締結
1995	「生物多様性国家戦略」策定
2008	「生物多様性基本法」制定
2010	「生物多様性国家戦略2010」策定、COP10開催(日本は議長国)
2011	「静岡市生物多様性地域戦略」策定

静岡市 生物多様性地域戦略

目標期間: 2020年
対象区域: 静岡市全域

静岡市の自然環境

本市が実施した「身近な生き物たち」の調査をはじめ、既存文献や様々な現地調査を基に市内の生きものの種数を整理すると、植物は約2,800種、動物は約4,700種を数え、合計約7,500種の生きものが生息・生育していることがわかりました。また、静岡県版レッドリストや専門家への聞き取りにより、247種の絶滅危惧種の生息・生育が確認されています。



山岳・森林地域

南アルプス地域

お花畑やハイマツ群落などの高山植生が分布。

- ムカゴユキノシタ・タカネマンテマ・タカネビランジ
- ホンドウコジョ・アズミタガリネズミ
- ライチョウ
- ベニヒカゲ・クモマベニヒカゲ

クモマベニヒカゲ

奥山地域

上部ではコメツガなどの亜高山帯針葉樹林、下部ではブナ・ミズナラ林やウラジロモミ・ツガが混交する冷温帯落葉広葉樹林が分布。

- クロソゴ群落・レンブクソウ (大井川上流)
- ニホンカモシカ・ニホンジカ・ツキノワグマ
- オオルリ・キビタキ・ワシタカ類
- アカイシサンショウウオ・ヒダサンショウウオ
- ヤマトイワナ (大井川源流)
- クモマツマキチョウ

アカイシサンショウウオ

山間地域

ミズナラ、コナラ、クスギなどの二次林が、標高の高い場所にまで分布。また、スギやヒノキなどの人工林も広く分布。

- チャボホトギス・ミツバテンナンショウ・キスミレ
- イノシシ・ニホンジカ・ホンダギツネ・タヌキ
- キビタキ・ウグイス
- シロマダラ・タカチホヘビ・ジムグリ
- タゴガエル・ヤマアカガエル
- オオムラサキ・ミスジチョウ



オオムラサキ



タゴガエル



シロマダラ



チャボホトギス



スズメ



ニホンジカ



イノシシ

農業地域

平野部では、農地は主に市街地周辺部に分布。水田や畑、茶畑、みかんの果樹園などでは、栽培種や耕作形態に応じた生態系が形成されている。

- ミソコウジュ・アマナ
- ホンダギツネ・タヌキ
- ツバメ・ヒヨドリ・ムクドリ・サギ類・タマシギ
- シマヘビ・ヤマカガシ・ニホンイシガメ
- ニホンアカガエル・ツチガエル・トノサマガエル
- メダカ・ホトケドジョウ
- ヘイケボタル



ホンダギツネ



ホトケドジョウ

都市地域

都市地域の公園や、社寺などの樹木や池が、小規模ながらも生きものの生息地となっている。

- アブラコウモリ
- カラス・スズメ・ムクドリ

水 域

河 川

安倍川、藁科川、興津川をはじめ、多数の河川が存在する。

- カワチシャ (安倍川)・ミクリ (安倍川河口付近)
- カワネズミ (上流域)
- カワガラス (上・中流域)・ヤマセミ (中流域)
- アカイシサンショウウオ・ヒダサンショウウオ (上・中流域)
- ヤマトイワナ (大井川上流域)
- カジカ・アマゴ (上流域)
- アユ・オイカワ・ウグイ (中流域)
- シマヨシボリ・ヌマチチブ (中・下流域)
- ツマグロキチョウ・ミヤマシジミ (河川敷)



ミクリ



カワガラス

池沼・湿地



ミズアオイ

麻機遊水地や鯨ヶ池など、市民のいこいの場、レクリエーションの場となっている。

- ミズアオイ・ミズニラ・カワチシャ・ミクリ
- カワセミ・カモ類・サギ類
- ギンブナ・モツゴ・メダカ
- チョウトンボ・コムラサキ・キトンボ



カワセミ

河口部・干潟域

安倍川や富士川の河口部では、砂州の発達により静水域が形成されている。巴川河口の折戸湾には、小規模な干潟や藻場が存在する。

- カワラヨモギ・シオクグ・ハマヒエガエリ (安倍川河口)
- コアジサシ・シロチドリ (砂礫地)
- シロウオ・ボラ・スズキ・ハゼ (河口)



スズキ

沿岸・海洋域

駿河湾は、1,000m以上の深所が湾内の奥深くまで進入し、海岸線からの海の斜面が急峻。砂嘴の三保半島や用宗にはクロマツの防風林が生息している。

- ハマゴウ・コウボウムギ・ハマヒルガオ
- アカウミガメ



ハマヒルガオ

静岡市の動植物の種数および絶滅危惧種の種数

	植物	哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	淡水魚類	昆虫類	陸・淡水産貝類	動物計	合 計
種 数	2,794	48	329	20	17	98	4,147	59	4,718	7,512
絶滅危惧種数 (絶滅危惧Ⅰ類・Ⅱ類のみ)	173	1	31	1	4	11	16	10	74	247

※絶滅危惧種数は、静岡市が位置する静岡県版レッドデータブックに掲載された地図メッシュに生息・生育情報があるものを集計した(周辺市町村を含む場合がある)。また、専門家への聞き取り結果も反映した。

出典:「身近な生き物たち」(平成16年、静岡市)、「河川水辺の国勢調査」(平成17年、国土交通省)、「まもりたい静岡県の野生動物植物」(平成16年3月、静岡県)他

生きものの恵みに囲まれた市民の暮らし

生物多様性が支える自然環境

静岡市の特徴ある自然環境



南アルプスから駿河湾に至る多様な自然環境は、静岡市の固有の景観を形成するとともに、安心・安全な生活の基盤となっています。



地域の食料や産業を支える恵み

多様な自然環境の下、地域性豊かな自然の恵みを受け、農産物の生産をはじめ様々な産業を発展させてきました。



観光、レクリエーションなどを支える恵み

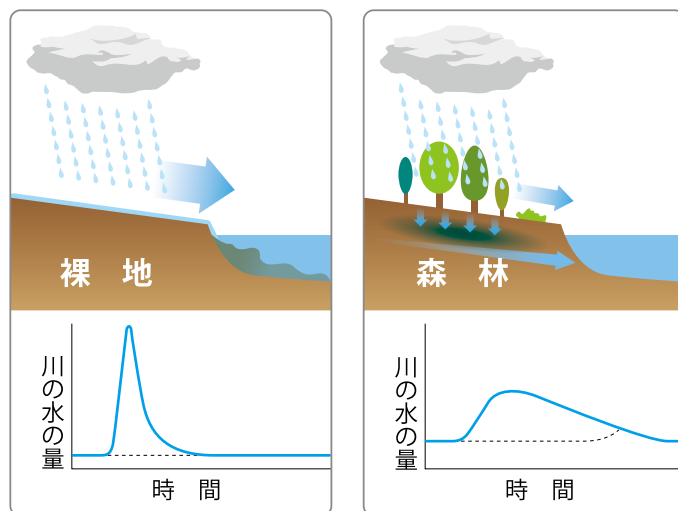
自然地形とそこに生育する多様な植物は、すぐれた観光資源や快適なレクリエーション空間を提供しています。

安全な暮らしを支える恵み

豊かな森林は、雨水の浄化・保水機能、風や温度の調節機能を有し、土砂の流出や土砂崩れなどの山地災害を防止しています。また森林は、豊かな海に欠かせない栄養の供給においても重要な存在です。

■ 森林がもつ保水機能

大雨が降っても水量を調節して洪水や土砂崩れを防ぐ



静岡市の生物多様性の課題

1) 生きものの生息・生育環境の減少・劣化

- 都市化による田んぼや畑など、緑地の減少
- 南アルプスのタカネマンテマや、奥山地域や山間地域に生育するホテイランなどのランの仲間の絶滅の危機
- ニッコウイワナの放流によるヤマトイワナの駆逐や交雑
- 特定外来生物のアライグマやソウシチョウ、オオクチバス、要注意外来生物のミシシippアカミミガメ、ハクビシンなどの外来種の生息域拡大
- オオキンケイギクなどの特定外来生物に指定されている植物の市内における生育拡大



2) 生態系サービスの低下

- 管理不足や耕作放棄地の増加による里地里山の荒廃
- 手入れ不足の森林の増加による水源涵養機能・土砂災害防止機能の低下
- 温暖化を背景とした海・川の恵み（漁獲量）への影響の懸念

3) 人と自然との関わりの変化

- 自然とのふれあいの場や機会の減少
- 里地里山を管理する担い手の不足
- 環境活動のネットワーク化の未整備

4) 環境負荷の増大

- 気候変動による生態系への影響の増大
- 資源の過度な消費、廃棄物による影響
- 経済活動における環境配慮の不足



戦略と静岡市の将来像

2050年の静岡市の姿

生きものとの共生による、健康で豊かな暮らしを次世代に受け継いでいく社会

戦略、取組方針などの見直し

戦略

2020年までの目標

「生物多様性の考え方の普及と保全・再生への着手」

リーディングプロジェクト

1. 南アルプス・井川エコパークプロジェクト
2. 里地里山保全・再生、人づくりプロジェクト
3. 生きものモニタリングプロジェクト

重点的な取組

戦略1 人と生きものが共生する社会づくり

1. 生きものの生息・生育場所を守ります。
2. 生きものの生息・生育場所をつなげます。
3. 外来種に関する普及啓発と管理体制の構築を推進します。

戦略2 自然に守られ、生きものの恵みを受ける社会づくり

1. 里地里山の恵みを守ります。
2. 川・海の恵みを守ります。

戦略3 自然を学び、育む社会づくり

1. 生物多様性に関する理解を促進します。
2. 環境活動の担い手を育てます。
3. 環境活動のネットワーク化を図ります。

戦略4 生物多様性に配慮した社会づくり

1. 生物多様性の保全を意識した地球温暖化対策に取り組みます。
～気温の上昇による生きものへの影響を低減します。～
2. 生物多様性に配慮したライフスタイルへの転換を進めます。

リーディングプロジェクト

4つの戦略を総合的かつ横断的に推進するため、戦略全体をリードしていく事業をリーディングプロジェクトとして位置付け、今後取り組んでいきます。

南アルプス・井川エコパークプロジェクト

ユネスコ「人間と生物圏(MAB)計画」※1事業として実施している生物圏保存地域※2(通称:ユネスコエコパーク)の考えを模範とし、世界自然遺産登録を目指す南アルプスと、その周辺の井川地域において生物多様性の保全と住民の生活向上に寄与するための環境教育や自然体験を実施します。

〈実施事業〉

①エコツーリズム推進事業

- ・エコツアーの開発やガイドの育成
- ・エコツーリズムの普及・啓発
- ・ユネスコエコパークの登録推進

【進捗把握指標】

- ・エコツアーの実施回数
- ・エコツアーのガイド育成講座の実施回数
- ・エコツーリズムの普及・啓発イベントの開催回数

②南アルプスの高山植物保全・再生事業

- ・シカの食害状況の把握や現地調査
- ・国、県、NPOとの協働による防鹿柵の設置をはじめとした保全・再生活動の推進
- ・南アルプスの自然に関する講演会等の開催

【進捗把握指標】

- ・保全対象地の現地調査箇所数
- ・保全・再生活動への参加者数
- ・講演会の開催回数

※1 人間と生物圏(Man and Biosphere:MAB)計画

ユネスコの国際協力プログラムの一つで、「人・Man」が営むあらゆる活動と「環境・Biosphere」との相互関係を理解し、資源の持続可能な利用と環境保全を促進することを目的とする活動の一つとして、自然と人間との相互関係の構築を目指した地域を「生物圏保存地域(Biosphere Reserves:BR)」に認定。

※2 生物圏保存地域

MAB計画が認定する自然保護地域。保護を主とする「核心地域」、教育や研修、レジャー等へ活用する「緩衝地帯」、地域の社会発展・経済活動を担う「移行地域」から成る。

里地里山保全・再生、人づくりプロジェクト

このプロジェクトでは、管理の行き届かなくなった里地里山を市民・NPOなどとの協働により保全・再生・管理し、里地里山の持続的な維持に取り組むとともに、生物多様性への理解を深め、生物多様性の認識を広めるリーダーとなる人材の育成に取り組めます。また、生物多様性の保全に関する取組と地球温暖化対策が相互に関係しあうことを踏まえ、市民一人ひとりがライフスタイルを見直すことで、生物多様性の保全に取り組む“人づくり”を進め、これが社会全体で取り組む姿勢の構築につながることを目指します。

〈実施事業〉

①里地里山アドプト推進事業

- ・里地里山アドプト制度(仮称)の創設
- ・保全・再生活動の支援
- ・緩衝地帯や放任竹林の整備推進

【進捗把握指標】

- ・里地里山アドプト制度(仮称)の参加団体数
- ・放任竹林の伐採面積



放任竹林の伐採



②環境学習リーダー育成事業

- ・環境大学におけるリーダー育成
- ・麻機遊水地や沼上資源循環センターにおける環境学習などの実施

【進捗把握指標】

- ・環境大学の修了者数
- ・沼上資源循環センターにおける環境学習の実施回数
- ・麻機遊水地内における自然観察会の実施回数



沼上資源循環センター

所在地 葵区沼上1217-1
開館日時 月～土曜日(日曜日・年末年始休館) 9:00～16:00

③生物多様性に配慮したライフスタイル推進事業

- ・環境保全型農業の推進
- ・民有地の緑化促進
- ・森林認証制度などの周知

【進捗把握指標】

- ・エコファーマーの認定者数
- ・民有地の緑化に対する補助件数
- ・森林認証制度などの認知度



自然観察会の様子



ミズアオイ

生きものモニタリングプロジェクト

過去数年間に実施した生きもの調査や文献調査を基に、専門家の意見を聞きながら、モニタリング調査を実施します。市民やNPO、関係団体から提供される情報や蓄積した情報を基に、外来種の適正な管理について検討し、市民やNPOなどとの協働による管理体制の構築を目指します。

〈実施事業〉

①“静岡市版生きものマップ”作成事業

- ルートマップの作成
- 市民・行政による生きもの調査
- 生きものマップの作成

【進捗把握指標】

- 生きもの調査の実施回数及び参加者数
- 散策ルートの選定数
- 生きものマップの生きものの種数



オオキンケイギク

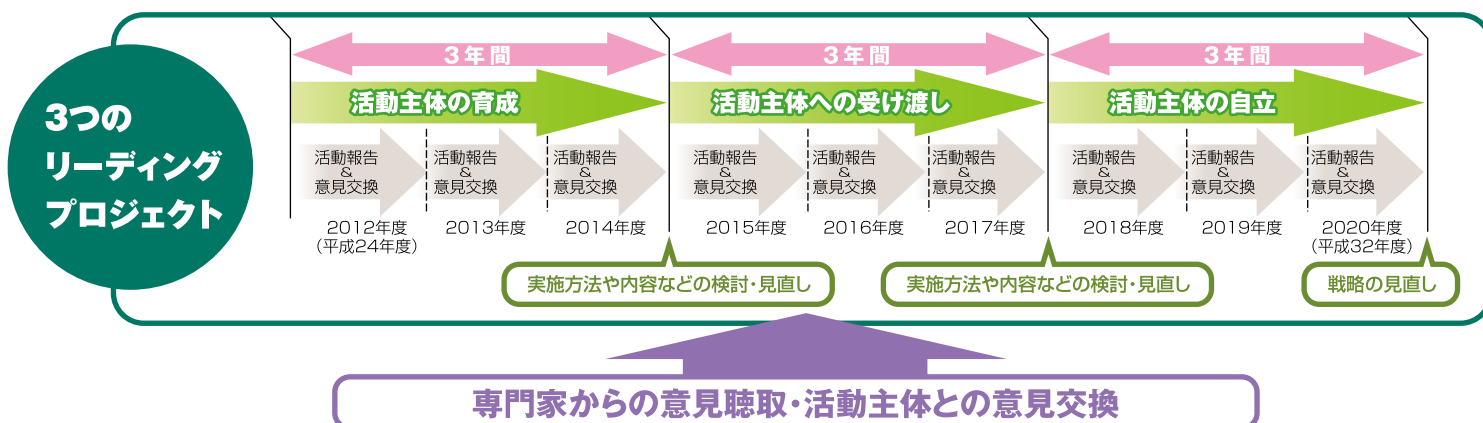
②外来種の適性管理事業

- 特定外来生物の情報収集
- 市民などとの協働による防除対策の検討・実施

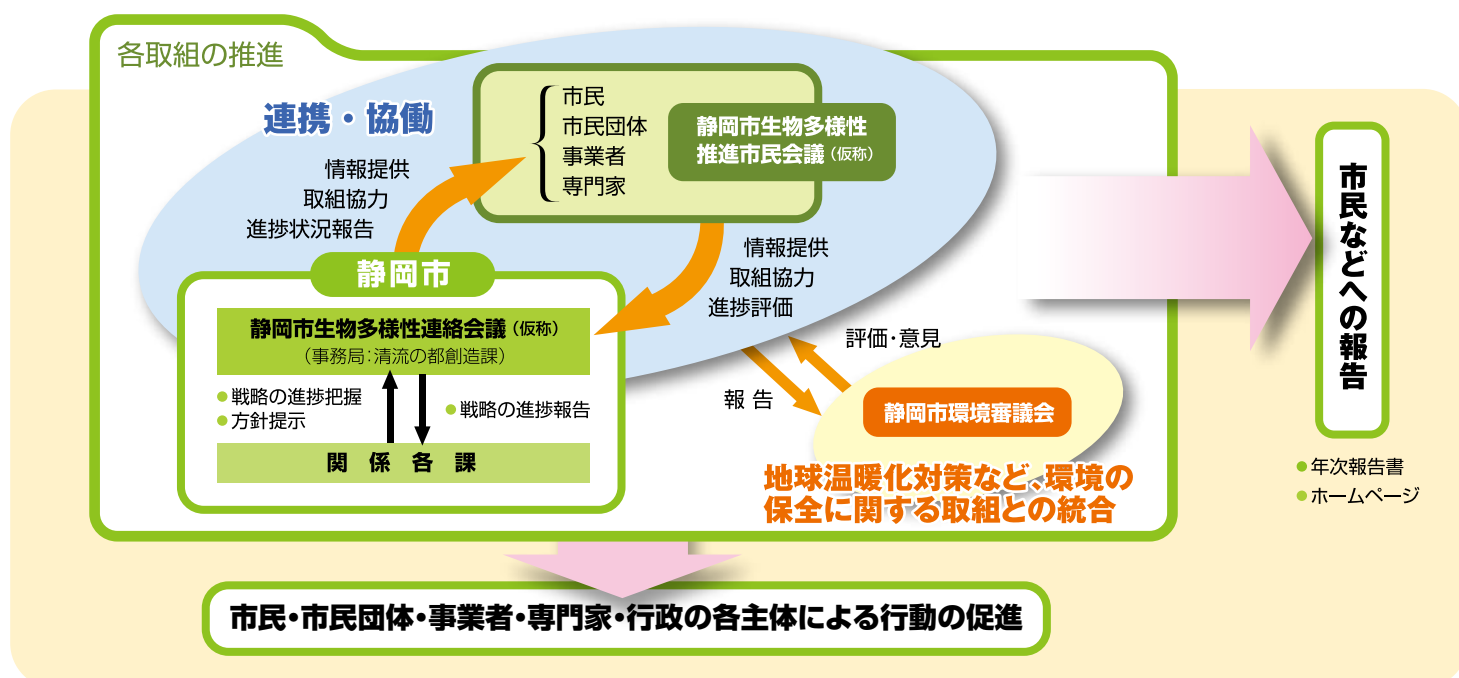
【進捗把握指標】

- 特定外来生物を対象にした生きもの調査の実施回数
- モデル地区における防除対策の実施状況

リーディングプロジェクトの進め方



推進体制と進行管理





静岡市生物多様性地域戦略

発行年月 平成23年11月
 編集・発行 静岡市環境局環境創造部 清流の都創造課
 〒420-8602 静岡市葵区追手町5番1号
 TEL:054-221-1357
 FAX:054-205-2666



環境にやさしいベジタブルインクを使用しています。